

エレクトロニクスの 臨床

別冊 2008.3

ロシアヘルスケア2007 第17回国際展示会サテライトシンポジウム
動脈スティッフネス定量診断標準化のための
CAVI日露国際ミーティング

山家智之, V.A.MILYAGIN, I.A.MILYAGINA, A.N.ROGOZA
M.G.GLEZER, V.E.OLEINIKOV, V.V.MIRONCHIK



エム・イー・タイムス

ロシアヘルスケア2007 第17回国際展示会サテライトシンポジウム 動脈スティッフネス定量診断標準化のためのCAVI日露国際ミーティング

山家智之*¹ V.A.MILYAGIN, I.A.MILYAGINA*² A.N.ROGOZA*³
M.G.GLEZER*⁴ V.E.OLEINIKOV*⁵ V.V.MIRONCHIK*⁶

1. 緒言

2007年12月、モスクワ国際展示場を借り切って盛大に開催されたロシアヘルスケア2007のイベントにおける第17回国際展示会サテライトシンポジウムとして、日露協同で、動脈スティッフネス診断の国際標準化を目指したセミクローズドのミーティングが開催された(図1)。日露の同時通訳のもとで行われ、ディスカッションは主に英語で行われた。英語が得意でない参加者、日本語

のわからない参加者、ロシア語が全くわからない参加者などが混在することになったが、数理についても突っ込んだディスカッションになったものと思われた。

国境をまたいで、東北大学、モスクワ州医学アカデミー、モスクワ心臓研究センター、ペンザ大学医学部、スモレンスク州医学アカデミー、ベラルーシ心臓研究センター、日ソ貿易とフクダ電子などの協同で、脈波伝播速度やCAVIのディスカッションを介した



図1 ロシアヘルスケア2007第17回国際展示会サテライトシンポジウム
動脈スティッフネス定量診断標準化のためのCAVI日露国際ミーティング

*¹ 東北大学加齢医学研究所 病態計測制御研究分野

*² Smolensk State Medical Academy

*³ Cardiology research center

*⁴ Moscow State Medical Academy, Moscow Clinic

*⁵ Penza State University

*⁶ Belorusskiy cardiology research Institute

動脈硬化のグローバルスタンダードの診断基準を目指した会議が開催されたことは意義深いと考えられる⁽¹⁻⁹⁾。

その理由は、グローバルスタンダードの名のもとに、得てしてアメリカ基準を押し付けられることが多い我が国において、欧州各国と連携して動脈スティッフネスの新しいスタンダードを提案していく意義は大きいと思われるからである⁽¹⁰⁻¹⁸⁾。

特に、ソビエト連邦崩壊の後のロシアでは、資本主義導入によるハイパーインフレによる経済破綻で国民生活が大変な影響を受けたなどもあり、アメリカンスタンダードに対して決して信用していないところがある。そのために、独自の基準を探る動きの息吹が感じられる点で、EUとの関連に将来性を探るところが感じられる。時期的に、ちょうどニュースなどでも取り上げられていたロシア下院選挙の直後でもあり、今後の国家の方向性を探る政治意識の高まりも

市内全体に感じられたが、討論でも医療政策の関連で選挙結果が話題に上っていた。柔道の達人として知られるプーチン大統領は知日派でもあり、現在のロシアは莫大なオイルマネーで未曾有の好景気にあることもあり、今後、日露協力の下にグローバルなパートナーシップを構築できれば興味深いと思われる。

2. 動脈スティッフネス定量診断標準化のためのCAVI日露国際ミーティング

会の初めにstiffness parameter β の理論式に基づいた、血圧に依存しない新しい動脈スティッフ計測の方法論の開発過程や、解析アルゴリズムの詳細についてフクダ電子の高橋部長より概説の講演があり(図2)、近年の日本におけるCardio Ankle Vascular Index (CAVI)の基礎研究について開発の苦労も交えて報告され(図3)、臨床的に証明されつつある血圧に依存しない計測における

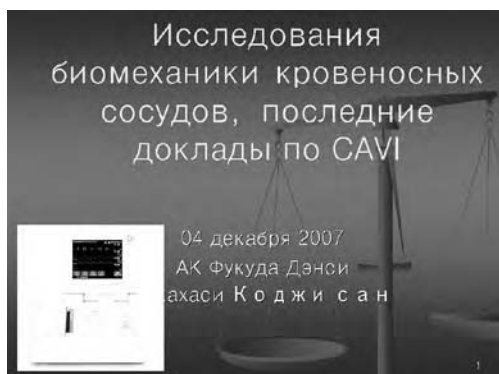


図2 国際標準化のためのCAVI基本原理解説用のロシア語スライド



図3 スティッフネスパラメータとCAVI基本原理解説用のロシア語スライド